

# 04

## 病気を診断する検査のスペシャリスト

りんしょう けんさぎし

# 臨床検査技師

### おしえて！臨床検査技師のおしごと

臨床検査技師は、外来診察室の医師から依頼を受けて患者さんの病気をつきとめたり、入院患者さんの検査を行って治療がうまく進んでいるかどうかを確かめる仕事です。

大きく分けると、尿や血液など身体から採った組織を分析して身体の状態を調べる「検体検査」と、超音波検査器など医療機器を使って病気や身体の異常なところを見つける「生理機能検査」の2つに分類されます。



臨床検査技師が行った一般検査（尿検査、便検査）、血液検査、生化学・免疫検査、細菌検査、輸血検査、超音波検査などの検査結果をもとに、病気の診断やその後の治療計画が立てられます。



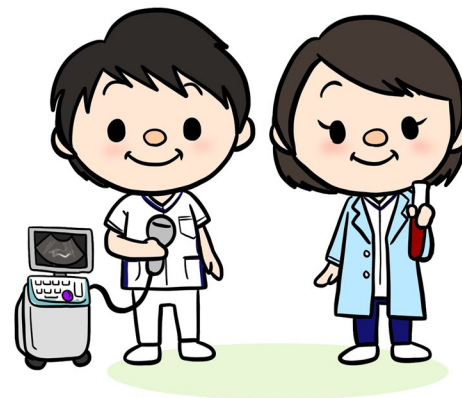
検査室で行う検査の種類はかなり多く、血液検査だけでもどの成分を調べるかによって必要な血液量や器具、試薬もちがうため、それらを間違えないよう細心の注意が必要になります。

当院では、臨床検査技師29人（検体検査15人、生理検査14人）、検査助手3人の体制で日々検査を行っています。

また当院の検体検査部門では、院内感染防止にも積極的に取り組んでいます。

### どうすれば臨床検査技師になれるの？

高校卒業後、専門学校や臨床検査技師の養成コースがある4年制大学、医療系の短大で学ぶことになります。このような学校を卒業することで臨床検査技師国家試験の受験資格が得られます。また医学部や歯学部を卒業した人も受験資格が得られます。



#### 豆知識

「細胞検査士」も臨床検査技師の仕事に含まれますが、患者さんから採取した細胞を検査するスペシャリストです。主な仕事は、がん細胞の発見です。がんとは悪性腫瘍の別名ですが、悪性か良性か判断が難しい細胞も少なくありません。顕微鏡などを使ってくわしく調べていくのが、細胞検査士の役割です。